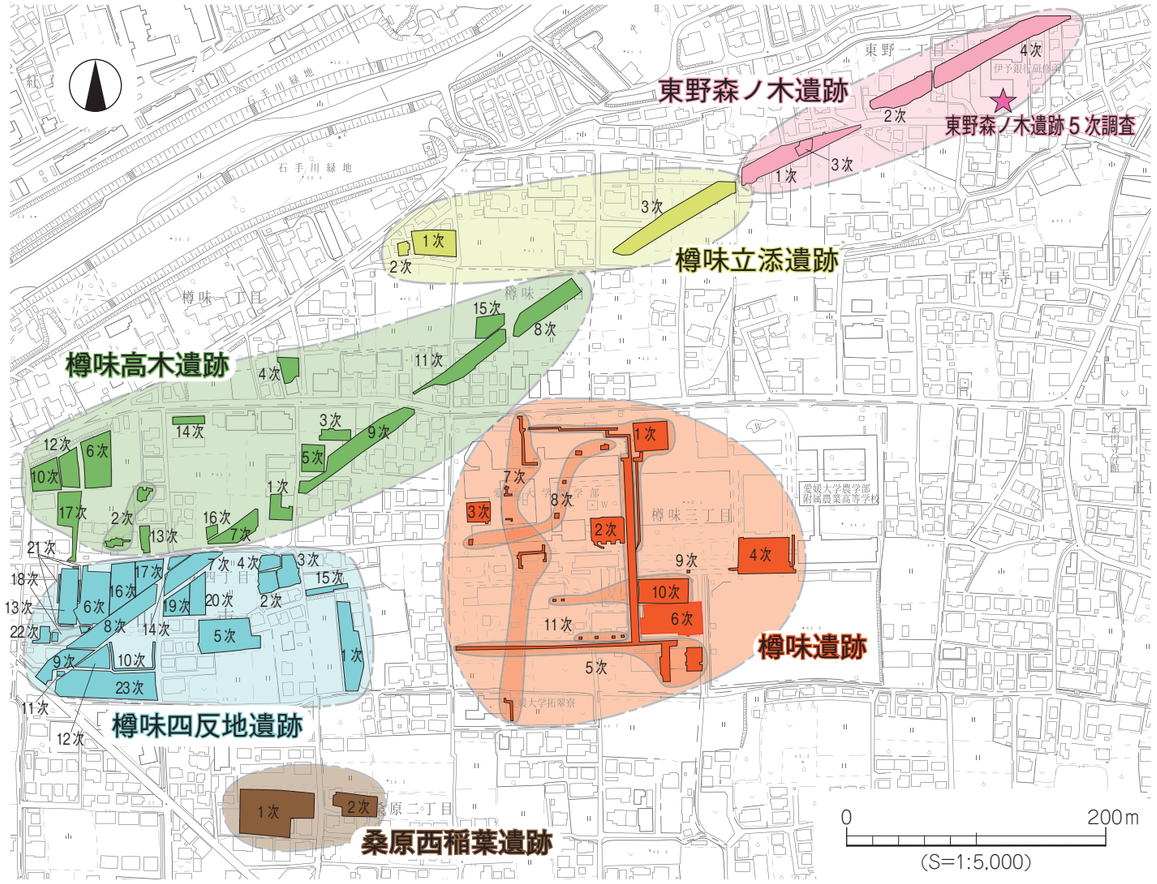
東野森ノ木遺跡５次調査　現地説明会資料

平成 26 年３月 15 日（土）

所 在 地：松山市東野一丁目甲５６番５の一部
調査面積：約 332㎡
調査期間：平成 26 年２月３日（月）～同年３月 18 日（火）予定
調査要因：建築工事
調査主体：公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団　埋蔵文化財センター

１．はじめに

東野森ノ木遺跡５次調査は、松山市埋蔵文化財包蔵地『No.81 樽味遺跡』内における民間の開発行為に伴う発掘調査です。調査地が所在する石手川の中流域南岸沿いには東西 800 m、南北 200 mの微高地が広がっており、この微高地上ではこれまでに５遺跡約 60 地点の発掘調査が実施され、縄文時代晩期の貯蔵穴や、弥生時代から中世にかけての集落跡であることがわかっています。なかでも弥生時代中期から古墳時代にかけては注目される遺跡が数多く発見されており、重要な地域となっています。



第１図　周辺遺跡分布図

＝　略年表　＝

B.C. 三万	B.C. 一万三〇〇〇 (B.C. 一万一〇〇〇)	B.C. 三〇〇	二〇〇	三〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	七〇〇	八〇〇	一二〇〇	一三〇〇	一五〇〇	一六〇〇	一七〇〇
旧石器時代	縄文時代	弥生時代		古墳時代			飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土･桃山時代		江戸時代

2. 検出遺構

竪穴建物（ＳＢ）　：　２棟〔弥生時代〕
掘立柱建物（掘立）　：　４棟〔弥生・平安・鎌倉・室町時代〕
溝（ＳＤ）　：　１条〔鎌倉時代〕
土坑（ＳＫ）　：　９基〔弥生・鎌倉・室町時代〕
柱穴（ＳＰ）　：216 基〔弥生・鎌倉・室町時代〕
倒木痕（倒木）　：　３基〔縄文時代〕

3. 出土遺物

縄文土器（晩期）、弥生土器（中期～後期）、土師器（古墳時代～中世）、
須恵器（古墳時代～室町時代）、陶磁器（平安～鎌倉時代）、石鏃（縄文～弥生時代）

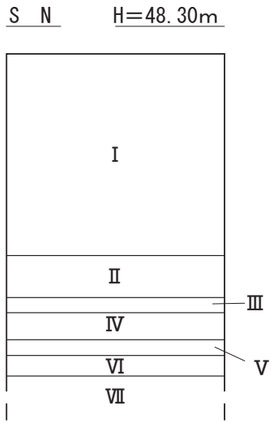
4. わかったこと

今回の調査では、縄文時代から室町時代までの遺構や遺物が発見されました。

縄文時代のＳＫ３は、晩期の深鉢の破片が１個体分出土し、微高地の北東部において縄文人が暮らしていたことが明らかとなりました。弥生時代になると中期や後期頃の竪穴建物や土坑が見つかり、ＳＢ１は建物内部の周囲に高床施設をもち、ＳＢ２は建物を支える支柱が２本の建物内部構造をもつものです。掘立柱建物は、弥生時代中期から中世（室町時代）にかけての建物で、なかでも掘立１は南側の柱穴が南北方向に重なっており、やや軸をずらして建て替えていました。また、掘立３の柱痕の一部には直径 18cm の柱材が使われており、建物の廃絶時には地中には柱が埋まったままでした。ＳＫ５は平面形態が長方形状で垂直に掘られており、貯蔵施設と推測されます。

これらのことから、微高地上に広がる縄文時代から室町時代にかけての集落景観を考える上で貴重な資料を得ることができました。

資料　２



(S=1:30)

第２図　西壁柱状土層図

Ⅰ:近現代の造成土
Ⅱ:近現代の耕作土
Ⅲ:水田床土
Ⅳ:中世以降の堆積層
Ⅴ:古代～中世の堆積層
Ⅵ:弥生時代の堆積層
Ⅶ:地山（上面にて遺構を検出する）

写真１　調査風景
記録保存のため、掘り下げた遺構や出土した遺物は測量し、図面や写真に記録保存しています。

写真２　遺構検出状況（東より）
地山の黄色土上面にて土色の違う遺構を検出しました。

写真３　遺構完掘状況（東より）
竪穴建物、掘立柱建物、土坑のほかにたくさんの柱穴が見つかりました。

写真４　ＳＫ３遺物出土状況（北より）
遺構の底面から縄文土器の深鉢が割れた状態で出土しました。

写真５　ＳＢ１完掘状況（北より）
竪穴建物内部の周囲には、幅１ｍ程の土を貼り付けた高床部が巡っていました。

第３図　遺構配置図

〔用語解説〕

・**遺構**（いこう）　住居や溝・土坑などの不動産的な人々の活動の跡。
・**遺物**（いぶつ）　土器・石器など過去の人々が残した動産的なもの。
・**遺跡**（いせき）　遺構や遺物が見つかる場所。

＜遺構名称＞

・**竪穴建物**（たてあなたてもの）　地面を掘り窪め、柱を建て、土、葦などの植物で屋根を葺いた建物
・**溝**（みぞ）　水などを流す目的で、地面などを線状に掘ったもの
・**土坑**（どこう）　ものを貯蔵する穴・ゴミ穴
・**柱穴**（ちゅうけつ）　柱を建てるために掘られた穴
・**倒木痕**（とうぼくこん）　樹木の転倒に伴い，地表付近の堆積物が回転し、埋没した跡
・**カクラン**　現代の穴

＜遺物名称＞

・**縄文土器**（じょうもんどき）　日本列島で縄文時代に作られた土器で、表面に縄目の模様がついたものが多く見つかっています。
・**弥生土器**（やよいどき）　色調は赤褐色などで、摂氏 600 ～ 900℃で焼かれた素焼きの土器で、弥生時代に使われた。
・**土師器**（はじき）　弥生土器の流れをくみ、古墳時代から江戸時代まで使われた赤褐色の素焼きの土器。
・**磁器**（じき）　主に石の粉末を練ったものが主原料
・**石鏃**（せきぞく）　石を材料として作られた鏃（やじり）で、主に狩猟具として使われた。